慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	古版経済書解題 一千七百〇七年版「貿易の繁昌を祈る者」著 貨幣及び為替概論
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1941
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.35, No.6 (1941. 6) ,p.778(80)- 786(88)
JaLC DOI	10.14991/001.19410601-0080
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19410601-0080

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

古版經濟書解題

一千七百〇七年版「貿易の繁昌を禱る者」著『貨幣及び爲替概論』

高橋誠一郎

玆に紹介せんとする書は、一千七百〇七年に倫敦で出版せられた『貨幣及び爲替概論』(A General Treatise of Monies and Exchanges; In which those of all Trading Nations are particularly Describ'd and Consider'd.) と題するものである。本書の著者は「貿易の繁昌を禱る者」(a Well-wisher to Trade) と云ふ匿名を用ひてゐるが、一般にアレグザンダー・ジャスチス(Alexander Justice)と看做されてゐる。ニコラス・タワートン(Nicholas Tourton)に宛てた本書献本の辭にはエー・ジェーと署せられてゐる。

爲替は固より貿易の最も複雑錯綜せる部分であつて、之れに關する知識は一商人の嗜みとして決して蔑視す可きものではないのであるが、而も猶ほ、此の貿易國家、英國に於いては、如何なる者も其の普通の手續以上のものを了解するは稀れであり、完全に之れに通達する者に至つては洵に寥々たるの有樣である。是に於いて乎、著者は、之れに關する若干の外國の著作に英國の服裝を纏はしめて江湖に示さんことを期したのである。然しながら、彼れが是れ迄に遭遇することの出來た如何なる外國の著者と雖も、此の世界が「爲替の神秘」(The Mystery of Exchanges) と呼ぶ所のもの、原理原則の何等整然たる體系をも提唱するの域に到達することなきを認めて、彼れが自ら業務遂行の途次、取得せる數年の經驗中に在つて、這般の問題に關して其の念頭に浮んだ思想を本論の前置として附加するを以つて便宜と考へたのである。(Dedication.)。本書の原本は、倫敦の商人ニコラス・リンカン(Nicholas Lincoln)が海外より將來せるものであつて、當時和蘭に居住しつゝある佛蘭西の亡命者が佛蘭西語を以つて草し、和蘭に於いて上梓せるものである。(Preface.)。

全然ジャスチス自身の著と稱せられてゐる本著の緒言的概論は正さに「爲替學要義」(The Elements of the Science of Exchange) と呼ばるゝを得可きものであつて、「貨幣及び爲替の緒言的概論」(An Introductory General Discourse of Monies and Exchanges.) と題せられ、九十五頁より成るものである。

著者に從へば、一般に貨幣は「想像的」(Imaginary) 及び「眞實的」(Real) の二種に分割せられる。彼れは「想像的貨幣」によつて、何等眞實なる正貨の正しき價値に非ざる貨幣の或る一定の高を表明するが爲めに使用せらるる總べての稱呼と解釋する。斯くて又、英國に於いては、正確に一封度の價値に通用する如何なる正貨も存せざるが故に、一磅は此の王國に於いては想像的の高である。彼れは「眞實的貨幣」によつて、或る一定の價格に於いて、此の國若しくはあらゆる他の國に於いて流通するあらゆる眞實の正貨、即ち貨幣の片を意味する。斯くて、あらゆる國に於ける正貨、及び其の種類相異なるに拘らず、苟も眞實の流通貨幣のあらゆる片は、這箇、一ギニィ、一クラウン、一シリング、一フアーヂング等の如き、國家の權威によつて鑄造せられ而して上記の權威と其れ自體の內在的價値に依つて或る一定の價格に於いて通用する金屬の或る一定量と做す這般の定義に該當するを得可きである。(pp. 1-

二〇。著者は次いで爲替に定義を下して、爲替手形と呼ばるゝ證書に依つて遂行せらるゝ貨幣の取引、換言すれば、他の都市若しくは國家の其れに對する一都市若しくは國家の貨幣の交換若しくは交易であるとする。（p. 3.）。爲替は紀元六百四十年、ダッグオーベール（Dagobert）の治世に於いて、又其の後、諸他の君主によつて佛蘭西から追放せられて、伊太利亞に遁走せる猶太人の發明に係る所である。即ち彼れ等は其の背後に殘した財産を回收するが爲めに這般の方法を案出したのである。斯くて先づフィーレンツェ、ベネチア及びヂェノアに於いて盛んに行はるゝに至つた爲替は、是れ等の地方から他の伊太利亞の亡命者によつてアムステルダムに傳達せられた。（p. 2.）。

次いで、ジャスチスは、其の讀者に向つて、總べての國々の貨幣及び正貨は、啻だに其の通用價格に於いてのみならず、其の內在的價値に於いても亦甚しく相互に相違するが故に、是れ等のものが其の鑄造せらるゝ國々に於いて通用する價格を何等顧慮することなく、各正貨の眞實且つ有效なる價値に從つて、是れ等のものゝ間に確立せらるゝ正確なる平價の存することを說く。彼れは平價を以つて二種とする。眞實的貨幣の其れと爲替若しくは想像的貨幣の其れである。而も、一は必然他に依存するが故に、是れ等の兩者は結局同一と爲る。彼れは眞實的貨幣の平價によつて、或る國の正貨の內在的價値と他國の其れとの均等を意味し、爲替の平價を以つて、或る國の想像的貨幣が他の國の其れに對して保持する比例と解する。（pp. 3-4.）。

著者は更らに爲替の騰落及び其の理由に就いて述べる。彼れは爲替の騰落を以つて、必然、次ぎの如き二事態の一若しくは兩者に歸せられざるを得ざるものと認める。第一は或る國の鑄貨の通用價格の變化であり、第二は偶々他國に於ける貨幣に對して一國に於いて存する需要である。（p. 4.）。而して、這般の貨幣交換は常に爲替手形によつて行はるゝ所なるが故に、著者は其の振出、切替、呈示、引受、及び支拂拒絶、並びに之れが條款、割引及び諸

A General

TREATISE

OF

Monies and Exchanges;

In which those of all Trading Nations are particularly Describ'd and Consider'd.

WITH

An Account of all the Foreign BANKS and different SPECIES and Denominations of MONIES, with their Current and Intrinsick Value; and of the Method and Practice of Foreign and Domestick EXCHANGES.

TOGETHER WITH

An Exact Translation of the Excellent Ordinances lately Publish'd in *FRANCE*, for EXCHANGE and COMMERCE, and the Regulations of most Trading Places upon that Subject. With an Introductory Discourse of the Nature and Origin of EXCHANGE, Containing also the Principles of that most Intricate and Useful part of COMMERCE; with Forms of Bills of all sorts, and the Customs of Merchants relating thereto; in a most Easie and Familiar Method.

AS ALSO,

TABLES of the Reduction of the MONIES and EXCHANGES of the most Considerable Towns in EUROPE.

To which is subjoyn'd,

A General Discourse of the Trade and Commodities of most Nations; with a more particular Account of those of *ENGLAND*, &c.

Together with

An Universal Treatise of the WEIGHTS and MEASURES usual in Trade all over the World, with Curious Tables relating thereunto. Of all which, a more particular Account in the Preface.

By a Well-wisher to TRADE.

LONDON,

Printed for *S. and J. Sprint*, and *J. Nicholson*, in *Little Britain*; and *R. Smith*, under the *Piazza* of the *Royal Exchange* in *Cornhill*, MDCCVII.

外國に於ける銀行貨幣と通貨との間の相違に就いて述べる。(pp. 7-34.)。

著者は貨幣に就いて概說し、The Map of Commerce の著者(一千六百三十八年に初版を出した Merchant's Mappe of Commerce の著者ルイス・ロベートを指す)の說くが如く、亞弗利加及び印度に於いては、貝殼、鐵、南京玉、鹽及び紙、銅及び鉛、果實等が貨幣の代りに通用することあるも　而も、外國人は如何なる國の貨幣をも其の眞の內在的價値に從つて評價するに過ぎざるが故に、如何なる歐洲國家に於いても、貨幣の不足が、銅、眞鍮、錫其の他の如き卑金屬の或る者より成る鑄貨によつて有效に供給せられ得るものと想像する人々は甚しく誤れるものなりと做し　而して、一千六百九十年に A Discourse of Trade. を公にせる匿名の某著者(ニコラス・バーボンを指すことが明かであらう。昭和十五年版拙著『重商主義經濟學說研究』三六五頁以下參照)が「貨幣は法律によつて作られた價値である。而して、其の價値の差は該片の刻印及び大きさによつて知られる」云々と說ける章句を擧示して、彼れは貨幣に對して最も拙劣なる定義を與へたものであると做した。ジャスチスは言ふ、彼れの所論は、世界の總べての他のものに知られて居らず、又、世界の他のものは之れを知らざるか、若しくは、少くとも外國民との商業が許容せられない遠い印度の或る王國に於いては頗る魅力に富むものであらうと。洵に、斯くの如き王國に於いては、彼れ等の貨幣若しくは貨幣として彼れ等の間に流通するものが、眞鍮であると、木であると、革であると、石であると、貝であると、又は他の如何なる這箇瑣末なる物質であつても、そが彼れ等自身の國土の產出する總べての必要品を彼れ等に得せしめることが出來、而して外國の便宜品及び貨物が永遠に彼れ等に知られないとしたならば、毫も問題ではないのである。然しながら、歐羅巴に於いて、銀及び金の代りに銅若しくは眞鍮を使用するを以つて無關心事と夢想するは、其れ自體に於いて極めて狂妄なる空想である。(pp. 34-38.)。

次いで、著者は、大多數の場所に於ける貨幣の稱呼及び計算の仕方をアルファベット順に記述し、(pp. 48-55.)、而して、リカルド(Ricard)によつて、佛蘭西語を以つて記され、アムステルダムに於いて出版せられた其の爲替に關する書中に擧示せらるゝ所に從つて、和蘭のリックスドラーと比較せられた諸種の貨幣の平價、並びに、別箇の著者(Henry des Aguiliers)に據る貨幣及び爲替の平價に關する他の記述を擧げる。(pp. 47-64.)。著者は又、バルセロナより安得府に對するものを初めとして、兩地間に於ける爲替手形の流通期間として習慣上認められた期限、並びにマリオス(Marius)、スカーレット(Scarlet)及び其の他の著者より拔萃せられた各地に於いて普通に認めらるる爲替手形支拂期日の猶豫日數を揭げる。(pp. 64-68.)。

爲替及び貨幣の實際的方面を略述し、兩者の本質及び效用を充分に說明せりと信じた著者は、玆に、爲替の理論的及び政治的方面の考察に移り、而して、そが那邊まであらゆる國民に取つて有用且つ有利なるかを檢討せんとする。而して、玆にも亦、著者は、必然、貨幣及び鑄貨に言及するのである。彼れは、貨幣の送付は正價に於けるよりも、爲替手形に於いて、一層敏速に、一層便利に、一層安全に、又、一層早やに行はるゝが故に、是れを以つて貿易上頗る有用なるものと觀、或る者は彼れ等が其の何たるかを知ることなきが故に聲を大にして爲替を攻擊し、又、單に之れを理解するの力を缺くが故にのみ其の效用を拒否するものと做してゐる。(pp. 68-69.)。

爲替は自國の貿易の均衡を生ぜしむる安易なる手段方法を供給するものである。(p. 71.)。兩國間の貿易の差額が平等であるならば、疑ひもなく、爲替は平價に於いて存するか、若しくは極めて之れに近かる可きである。然しながら、貿易の差額が不平等であり、而して、一國民が他國民の所有物を購入すること他國民が彼れ等の其れを購入するよりも著しく大であるならば、疑ひもなく、他國民に債務を負へる國民の貨幣は、其の國民の債務に比例して

安く評價せらる可きである。是れに由つて、爲替は自國貨幣の輸出を奬勵するどころか、事實、之れを防止し若しくは減少するものであることが明かである。(p. 74.)。

著者は、あらゆる國民の鑄貨の狀態に影響し若しくは影響することの出來るのは、正價の內在價値若しくは通用價値に於ける何等かの變更でもなく、外國鑄貨の流通禁止でもなく、其の奬勵でもなく、又、彼れ等自身の間に於ける兩替人等が自己の私的利益の爲めに依賴することの出來る如何なる方法でもないことを主張する。(p. 76.)。彼れは最後に、英蘭銀行並びに「一般及び特殊の爲替規定に言及して其の緒言的概論を終る。(pp. 92-94.)。

II

「全通商國民の貨幣及び爲替概論」に入つて著者は先づ倫敦及び女王の全領土より始めて、第二、巴里、里昂並びに全佛蘭西、第三、西班牙並びに葡萄牙、第四、伊太利亞の全重要都市並びに全地中海沿岸都市、第五、獨逸、瑞典、丁抹、露西亞、瑞西、サヴオイ其の他、第六、低地諸邦の順序を以つて之れを叙する。爲替に就いて論ずる大多數の著者は、外國の其れから始めるのであるが、彼れは他の方法に據るを適當と思惟したのである。彼れは又、第一項に於いて、苟も顯著なる貿易の存する大多數の諸外國に在つて既に其の設置を見て居る商事裁判所設立案を提唱する。第七項は、前揭 The Merchant's Map of Commerce. と題する書中に擧示せられて、而も、前論中に注意せらるゝことのない西班牙及び伊太利亞に於ける數都市の貨幣及び爲替に關する略述より成る。尙ほ之れは、里昂、フランクフルト、ライプチッヒ及びナウムブルグ其の他の定期市に關する略論を添へる。第八項はスカーレット、マリオス、マン(Munn)及び其の他の諸著者に於ける爲替に關する理論的部分の最も重要且つ適切なるものより成る。尙ほ最後には、爲替に關する重要なる諸點に關する一二の質疑應答が添へられてゐる。全篇四百二十四頁。

本書には又、A General Treatise of the Reduction of the Exchanges, Moneys and Real Species of most Places in Europe, in Two Exact Tables. と題するものが合卷せられてゐる。近くアムステルダムに於いて出版せられた和蘭書の英譯である。原著者はジョン・ヘンリーッシィ(John Henricy)であつて、譯者名は同じく「貿易の繁昌を禱る者」と記されてゐる。更らに之れには附錄として、同じくヘンリーッシィの The Tables relating to the Exchanges with France, reform'd: viz London, Antwerp, Hamburgh, Amsterdam, Venice, and Frankfort, with France. が添へられてゐる。頁附はならが、通計百〇一頁のものである。

此の書は更らに又、英國其の他の國の著者から拔萃せられた百十九頁より成る A General Discourse of Commerce: Being a View of the Commodities and Merchandizes, produc'd in all Countries of Trade; Whether the natural Product of the Places or the Manufacture of the Inhabitants. Together with the Seasons of buying and selling, and the Custom and Practice of Merchants in those Affairs. As also, Several Acts of Parliament for the Encouragement of Trade in England, the Privileges of Foreigners in Commerce, and a brief Account of the several (ompanies of Merchant Adventurers, &c. 七十二頁より成る『爲替論』の著者リカルドよりの英譯 A General Discourse of the Weights and Measures usual in all Considerable Towns of Trade. 及び四十九頁より成る An Additional Collection of Instruments and Forms of Writings relating to Commerce. が合卷せられてゐる。之れに二十八頁に及ぶ索引を加ふる時は、全卷實に九百頁に達するものと爲る。

III

英國歷史學派の經濟學者、牛津大學教授ソーロールド・ロヂャース(James E. Thorold Rogers)は、其の一千八

百八十七年の著 The First Nine Years of the Bank of England. An enquiry into a weekly record of the price of bank stock from August 17, 1694 to September 17, 1703. に於いて一再ならず本書を引用し、是れを以つて「極めて稀覯にして且つ貴重なる著作」となし、彼れは之れを牛津大學のボードレー圖書館 (the Bodleian Library) にがいて參讀することを得たる旨を述べ、同圖書館所藏本は大英博物館には其の一本も存せざる旨を記す由を附記してある。(pp. 30, 37.) 私は偶々此の有名なる牛津經濟學者の書を讀んで、彼れが特に再度まで an exceedingly rare and valuable work. とか excessively rare, but it is in Bodley. とか記しつゝある珍籍が、久しい以前から私の貧しき書架の一隅に所藏せられ居ることを奇とし、本書が果してロチャースの言ふが如く、稀世の珍書なりや否やを訝るものである。ジャスチスは、本書の外、一千七百〇五年に A General Treatise of the Dominion and Laws of the Sea, ancient and modern (especially French and English), together with a proposal to abolish Pressing for the Navy. を公にしてゐると云ふことである。

獨逸ハンザに關する近著三種

高村象平

Georg Fink, Die Hanse. (Leipzig. 1939.)

Fritz Rörig, Vom Werden und Wesen der Hanse. (Leipzig. 1940.)

Claus Nordmann, Oberdeutschland und die deutsche Hanse. (Weimar. 1939.)

I

獨逸ハンザについての概説書は、このところ暫らく刊行されなかつた。今世紀になつてから出版され、そして信賴して參照し得るものとしては、Dietrich Schäfer, Die Hanse. (Bielefeld u. Leipzig. 1903.) と、Walther Vogel, Kurze Geschichte der Deutschen Hanse. (München u. Leipzig. 1915.) との二つを數へ得るのみである。前者はヘイク氏編纂の Monographien zur Weltgeschichte. の第十九冊として、後者は Pfingstblätter des Hansischen Geschichtsvereins. の第十一冊として公刊されたものであつた。兩者共に詳註を缺くが、シェファ教授の著書は、挿入された多くの圖版によつて讀者の理解を助けるところ多く、フォゲル教授のそれはその表題の示す如く簡潔にしてしかも要を盡してゐる點において特色がある。